

みずほマーケット・トピック(2025 年 2 月 28 日)

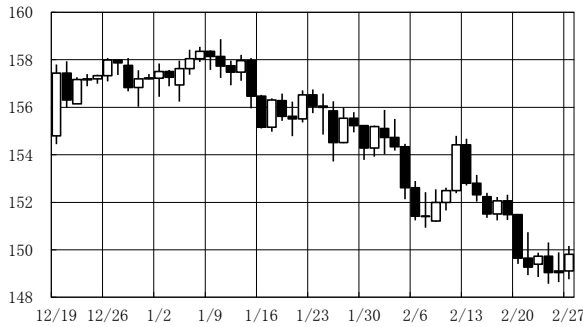
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

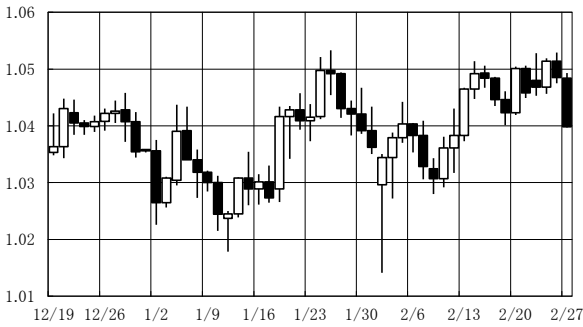
- 今週のドル/円は振れ幅を伴うも方向感なく推移。週初24日、149.42円でオープンしたドル/円は本邦休場の東京時間朝方に一時148円台後半まで下押しするも、長くは続かず149円台半ばまで回復。海外時間は、米金利や米株の動向を横目に続伸し、その後も注目指標の発表のない中、149円台後半でもみ合い推移となった。25日、ドル/円は円金利低下を受けて一時週高値の150.30円まで上伸も、日銀の利上げペースに関するタカ派な報道を受け円買い優勢となり上に往って来いの展開。海外時間は、米政権による対中半導体規制強化報道を受けてリスク回避ムードの中、米2月コンファレンスボード消費者信頼感の弱めの結果を嫌気し148.56円まで急落。約4か月ぶりの安値圏まで値を下げ、年初来最安値を更新。26日、ドル/円は低下していた米金利が上昇に転じたのに合わせ149円台半ばまでじり高。海外時間は、149円台後半まで続伸後、米1月新築住宅販売の予想を下回る結果や米金利が再び低下し148円台後半へ反落した。27日、ドル/円は米金利上昇と共に149円台後半へじり高。海外時間は、トランプ米大統領による関税引き上げ方針の発言が伝わるとドル買い地合いとなり一時150円台前半まで上伸も上値は重く、結局149円台後半で引けた。本日のドル/円は、149円台後半で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは週後半に急落。週初24日、1.0473でオープンしたユーロ/ドルは23日の独連邦議会選挙の結果を受け1.05台前半まで上伸も、独2月IFO企業景況感指数の冴えない結果を嫌気し1.04台半ばへ反落。25日、ユーロ/ドルは独10~12月期GDPの予想通りの結果に相場への影響は限定的。1.04台後半でもみ合い推移後、米経済指標の弱い結果を受けた米金利低下を支えに1.05台前半へ急伸した。26日、ユーロ/ドルは米金利上昇を嫌気し1.04台後半へ軟化後、米経済指標の弱い結果を支えに週高値の1.0529まで反発。ただ、トランプ米大統領によるEUへの関税賦課発言を背景にユーロ安となり再び1.04台後半へ反落。27日、ユーロ/ドルは米金利高の中で、トランプ政権による追加関税引き上げ発言を背景にリスク回避地合いとなり、週安値の1.0397まで急落。本日のユーロ/ドルは、引き続き前日の安値圏付近で取引されている。

		前週末	今 週				
		2/21(Fri)	2/24(Mon)	2/25(Tue)	2/26(Wed)	2/27(Thu)	
ドル/円	東京9:00	149.49	149.42	149.92	149.05	148.88	
	High	150.73	149.86	150.30	149.89	150.16	
	Low	148.93	148.85	148.56	148.63	148.76	
	NY 17:00	149.33	149.70	149.02	149.12	149.82	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0500	1.0473	1.0467	1.0520	1.0487	
	High	1.0506	1.0528	1.0519	1.0529	1.0492	
	Low	1.0449	1.0453	1.0456	1.0475	1.0397	
	NY 17:00	1.0461	1.0468	1.0514	1.0485	1.0398	
ユーロ/円	東京9:00	157.10	156.35	156.93	156.79	156.07	
	High	158.15	157.22	157.30	157.10	157.21	
	Low	155.85	156.30	156.11	156.07	155.70	
	NY 17:00	156.04	157.18	156.70	156.32	155.72	
日経平均株価		38,776.94	-	38,237.79	38,142.37	38,256.17	
TOPIX		2,736.53	-	2,724.70	2,716.40	2,736.25	
NYダウ工業株30種平均		43,428.02	43,461.21	43,621.16	43,433.12	43,239.50	
NASDAQ		19,524.01	19,286.93	19,026.39	19,075.26	19,075.26	
日本10年債		1.42%	-	1.38%	1.36%	1.39%	
米国10年債		4.43%	4.40%	4.30%	4.25%	4.26%	
原油価格(WTI)		70.40	70.70	68.93	68.62	70.35	
金(NY)		2,953.20	2,963.20	2,918.80	2,930.60	2,895.90	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、3月3日(月)に2月ISM製造業景気指数が、5日(水)に同非製造業景気指数が公表される予定になっている。前回1月分の結果は、製造業が50.9と市場予想(50.0)および12月(49.2)を上回った一方で、非製造業は52.8と市場予想および12月の54.0を下回った。製造業指数の中立水準超えは実に27か月ぶりである。若干弱含んだとはいえ依然高水準を維持する非製造業指数と合わせて考えれば、年初の米経済にも目立った失速は確認されていないように見える。利下げをスキップし、しばらくは様子見が見込まれるFRBの金融政策とも整合的だろう。なお、ブルームバーグの事前予想では、2月の結果に関し製造業指数を50.5、非製造業指数を53.0と見込んでいる。
- 欧州では、3月6日(木)にECB政策理事会が開催される。前回1月会合は▲25bpの利下げを決定。その後のECBの情報発信(2月7日公表の報告書等)などを踏まえる限り中立金利は「1.75%～2.25%」と思われるが、最近のECB高官発言を踏まえてもこの近辺までの利下げは支持されるのだろう。実際、足許の市場織り込みもこういった見方と整合的である。ただ、徐々にだが中立水準の上限に近づいているのも確かであり、同時に利下げ余地も狭まっている。軟調な内需を押し上げるためには一層の利下げが求められるが、物価情勢がそれを許すかは不透明である。

	本 邦	海 外
2月28日(金)	・2月東京消費者物価指数 ・1月鉱工業生産(速報) ・1月小売売上高 ・1月住宅着工件数	・独2月消費者物価指数(速報) ・米1月個人所得/支出 ・米1月個人消費支出デフレーター
3月3日(月)	・2月製造業PMI(確報)	・ユーロ圏2月製造業PMI(確報) ・ユーロ圏2月消費者物価指数(速報) ・米2月ISM製造業景気指数
4日(火)	・1月失業率/有効求人倍率 ・10～12月期設備投資 ・2月消費者態度指数	・ユーロ圏1月失業率
5日(水)	・2月非製造業PMI(確報)	・ユーロ圏2月非製造業PMI(確報) ・ユーロ圏1月生産者物価指数 ・米2月ISM非製造業景気指数 ・米ページブック公表
6日(木)	・連合 25年春闘要求主集計結果公表	・ユーロ圏1月小売売上高 ・ユーロ圏ECB政策理事会 ・米1月貿易収支
7日(金)	_____	・独1月製造業受注 ・ユーロ圏10～12月期GDP(確報) ・米2月雇用統計

【当面の主要行事日程(2025年3月～)】

ECB政策理事会(3月6日、4月17日、6月5日)

FOMC(3月18～19日、5月6～7日、6月17～18日)

日銀金融政策決定会合(3月18～19日、4月30日～5月1日、6月16～17日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年2月27日	欧米デカップリングに対するECBの見解
2025年2月25日	ドイツ総選挙レビュー～「壁の内側」では何も変わらず～
2025年2月21日	週末版(不安漂う米国の消費者マインド～追加関税の副作用～)
2025年2月20日	トランプ就任1か月、金利・為替はどう動いたか
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年1月分)
2025年2月18日	円建て輸入物価で読む日銀の「次の一手」
2025年2月17日	本邦10～12月期GDPを受けて～鮮明になるインフレ税～
2025年2月14日	週末版(窮屈になりそうなECBの政策環境～追加関税とユーロ安～)
2025年2月13日	ドイツ総選挙の展望～重いメルケルの「負の遺産」～
2025年2月12日	デジタルに規定されるサービス赤字10兆円時代の足音
2025年2月10日	為替需給から整理する日米首脳会談
2025年2月7日	週末版(円高の背景整理～その持続性を疑う～)
2025年2月5日	関税相場と円相場～日米首脳会談を控えて～
2025年2月4日	「需給ギャップ」は利上げしない理由になるか？
2025年1月31日	週末版(ECB政策理事会を終えて～極めて大きくなる欧米格差～)
2025年1月30日	FOMCを終えて～近づく「利下げの終わり」～
2025年1月28日	一抹の不安を感じる大統領と財務長官の齟齬
2025年1月27日	日銀会合を終えて～円安次第、変わらず～
2025年1月24日	週末版
2025年1月23日	ユーロ安の影響に言及したラガルドECB総裁
2025年1月22日	ワンノッチは解消されたのか～日銀プレビュー～
2025年1月21日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年12月分)
	就任演説を受けて～気になる原油価格の今後～
2025年1月17日	週末版
2025年1月15日	「NISA貧乏」もインフレ税の結果
2025年1月14日	サービス収支赤字の長期試算～赤字▲10兆円の常態化か？～
2025年1月10日	週末版
2025年1月9日	円金利上昇でも円安～恐れていた事態～
2025年1月8日	早速、パリティ割れを視野に捉えるユーロ/ドル相場
2025年1月7日	ブラックスワンとしての「プラザ合意2.0」を考える
2025年1月6日	25年、円相場見通しポイント整理
2024年12月24日	家計金融資産の現在地～進んだ「貯蓄から投資」～
2024年12月20日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～円相場は1月まで持つのか～)
2024年12月19日	FOMCを終えて～やはり高そうな中立金利～
2024年12月18日	ドル覇権への挑戦と第二次トランプ政権
2024年12月16日	スイスフランと円の差を考える～貿易収支の大きな違い～
2024年12月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年11月分)
	週末版(ECB政策理事会を終えて～目指すは中立金利以下か？～)
2024年12月11日	本邦大手保険会社の海外企業買収報道を受けて
2024年12月10日	続・円相場の需給環境について～25年ポイント補足～
2024年12月9日	2025年見通しのポイント～金利編その②～
2024年12月6日	週末版(流動化する欧州政治とユーロ相場～内憂外患そのもの～)
2024年12月5日	2025年見通しのポイント～金利編その①～
2024年12月3日	2025年見通しのポイント～需給編その②～
2024年12月2日	2025年見通しのポイント～需給編その①～
2024年11月29日	週末版
2024年11月28日	英国ISAと新NISA、資本逃避を巡る似て非なる悩み
2024年11月27日	目標にすべきではない「実質賃金の上昇」
2024年11月25日	2年ぶりに注目されるユーロ/ドルのパリティ割れ
2024年11月22日	週末版(史上最大の妥結資金も利下げ路線に影響なし～ユーロ圏7-9月期妥結資金を受けて～)
2024年11月21日	混迷が極まるドイツの政治・経済情勢
2024年11月19日	ECB政策理事会議事要旨を受けて～12月利下げの読み筋～
2024年11月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年10月分)
	日銀にとって「渡りに船」となる好調な個人消費
2024年11月15日	週末版
2024年11月14日	「家計の円売り」は腰折れたのか？
2024年11月13日	内外物価格差で感じること～欧州を訪れて～
2024年11月12日	トランプ2.0で「仮面の黒字国」が主張すべきこと
2024年11月11日	弱まる「実需の円売り」vs. 強まる「投機の円売り」
2024年11月8日	週末版(ナローパスに嵌まるFRB～「トランプ2.0はインフレ2.0」～)
2024年11月1日	週末版
2024年10月28日	総選挙を終えて～「デフレ脱却」はもう刺さらず～
2024年10月25日	週末版(政治不安とトリプル安～政局不安で「日本売り」なのか？～)
2024年10月23日	アコード修正という物価高対策～最もイージーな一手～
2024年10月22日	投機の円ロングはあと半分～問題はその後～
2024年10月21日	衆院選を受けた金融市場の想定～メインとリスク～
2024年10月18日	週末版(ECB政策理事会を終えて～対照性強まるユーロとドル～)
2024年10月17日	インフレ率「0%超」目標をどう受け止めるか？
2024年10月16日	スルーされた台湾有事～やはりなかった「リスクオフの円買い」～
2024年10月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年9月分)
	不透明過ぎる11月FOMC～1年後が気がかり～
2024年10月11日	週末版
2024年10月10日	世論が望むのは「デフレ脱却」ではなく「インフレ脱却」
2024年10月9日	失速が目立ってきたユーロ圏の経済・金融情勢
2024年10月8日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2024年10月7日	円の基本シナリオに変更の必要は？～雇用統計を受けて～
2024年10月4日	週末版
2024年10月3日	日銀短観(9月調査)と日銀の「次の一手」
2024年10月2日	外貨準備構成通貨の近況について(2024年6月末時点)
2024年10月1日	「石破カラー」は当面お預け～「3年でデフレ脱却」の不安～
2024年9月30日	石破政権が市場にもたらすのは希望か、失望か
2024年9月27日	週末版(145円到達と日銀の「次の一手」～それでも「時間的な余裕はある」～)
2024年9月25日	家計資産の外貨比率は過去最高～避けたい日本版トラスショック～
2024年9月24日	改めて考える日銀10月利上げの難易度
2024年9月20日	週末版
2024年9月19日	FOMCを終えて～思い出される糊代論と今後～
2024年9月18日	自民党総裁選～各候補の立ち位置と変わらぬ前提～
2024年9月17日	円高の背景にある需給改善～金利差に限らず～
2024年9月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年8月分)
	週末版(ECB政策理事会を終えて～予定通りも25年以降の不透明感強く～)
2024年9月11日	ECB政策理事会プレビュー～問題は2025年以降～
2024年9月10日	衰えなかった家計部門の投資意欲～資産選別の兆候も～